

第19回日本ジオパーク委員会議事録(案)

日付： 2013年12月16日(月)

時間・場所： 13:30～17:00 経済産業省別館 1階 114会議室

[出席者]

委員長

尾池和夫 京都造形芸術大学 学長

副委員長

町田 洋 日本第四紀学会(東京都立大学 名誉教授)

委員(五十音順)

阿部宗広 一般財団法人 自然公園財団 専務理事

伊藤和明 NPO法人 防災情報機構 会長

菊地俊夫 日本地理学会(首都大学東京 教授)

小泉武栄 東京学芸大学 特任教授

高木秀雄 日本地質学会(早稲田大学 教授)

中川和之 日本地震学会(時事通信社 解説委員)

中田節也 日本火山学会(東京大学地震研究所 教授)

成田 賢 全国地質調査業協会連合会 会長(応用地質株式会社 代表取締役社長)

佃 栄吉 産業技術総合研究所 地質調査総合センター代表

オブザーバー

外務省大臣官房国際文化協力室 外務事務官

門倉俊明

文部科学省文部科学省国際統括官付 ユネスコ協力官

堀尾多香

文化庁文化財部記念物課 主任文化財調査官

桂 雄三

林野庁森林整備部 計画課 森林計画官

濱名功太郎

林野庁国有林野部 経営企画課 森林施業調整官

和泉慎太郎

経済産業省産業技術環境局知的基盤課 課長補佐

高橋 潔

国土交通省砂防部砂防計画課地震・火山砂防室 火山対策係長

西谷 諒

観光庁観光地域振興部 観光資源課 係長

家村成章

環境省自然環境局国立公園課 事業係長

速水香奈

事務局

利光誠一 産業技術総合研究所地質標本館 館長

下川浩一 産業技術総合研究所地質標本館 副館長

渡辺真人 産業技術総合研究所地質標本館

澤井祐紀 産業技術総合研究所地質標本館

宮内 涉 産業技術総合研究所地質標本館

菅家亜希子 産業技術総合研究所地質標本館

住田達哉 産業技術総合研究所地質標本館

日本ジオパークネットワーク

事務局長 斎藤清一

事務局員 中山由美子

[配布資料]

- 資料1 第18回日本ジオパーク委員会議事録（案）
- 資料2 ジオパーク活動の状況
- 資料3 ユネスコにおけるジオパークに関する議論の経緯
- 資料4 現地審査報告書(山陰海岸)
- 資料5 現地審査報告書(恐竜渓谷ふくい勝山)
- 資料6 現地審査報告書(天草御所浦)
- 資料7 再審査結果最終報告（案）
- 臨時資料1 伊豆半島地域の現地審査報告書（委員限り）
- 臨時資料2 ユネスコ世界ジオパークイニシアチブについて（その場限り）
- 臨時資料3 とち鹿追ジオパークからの追加資料（委員限り）
- 臨時資料4 阿蘇地域の指摘事項改善案（委員限り）

13:30 開会 利光事務局長より開会宣言。

【委員長挨拶】 13:31～

・本日は3か所の再認定審査。2008年からジオパークが始まり、4年を過ぎ、再認定地域がこれから増えていく。関係市町村が日本の自治体の一割を超えた。着地型ジオパーク旅行の商品開発の話が進んでいる。（プレス関係者退出）

【事務局による資料概要説明と前回議事録の確認】 13:33～

（事務局）配布資料の確認。前回議事録について指摘事項等あれば、事務局に連絡。

【事務局による前回委員会以降のジオパーク活動の状況】 13:36～

（事務局）資料2に沿って説明

・JGN 隠岐大会中の伊豆大島での土砂災害に関連して、ジオパーク推進協議会と地震研が共催で土砂災害についての説明会があった。断片的なマスコミの情報に代わって、必要な科学的知識を地元結び付ける上で重要。→（委員長）島原宣言の中で災害を学ぶ機能としてジオパークがあることが盛り込まれている。

【再認定地域現地審査報告、質疑応答、再認定の可否】

1. 山陰海岸 GP 13:41～

現地審査員報告（菊池）・資料4・資料7

- ・現地審査員は、菊池 俊夫、竹之内 耕、加賀谷 にれ。
- ・前回審査時の宿題の達成度をみた。ガイドシステムやジオサイト選定など地域間ギャップをなくす工夫で広域の地域連携がうまくいっている。
- ・問題点としては、産業や観光などの行政や地域組織を束ねる必要性。統一的なサインや解説板の改善。拠点施設が弱い。
- ・推進協議会は、こういった課題をすでに認識しており、心強い。
- ・ジオサイト間をつなぐため車を使ったジオツーリズムの開発。
- ・拡大申請地域と既存地域を視察し、ガイド研修を含め活動にギャップがないことを確認。ただし、1種・2種のガイドは拡大申請地域にはまだいないので養成必要。

質疑応答

- ・(委員長) GGNでの地域拡大について説明を→(事務局) GGNとしては、1月に拡大地域を含めて再認定審査を行う。JGCとしては、ここで相談必要。
- ・元々なぜ拡大地域を入れてなかったのか?→もともとあった行政的な境界(自然公園?)が原因。ジオパークの地質構造からするとともに入れておくべきだった。
- ・(委員長) 統一だけでなく多様性・個性も重要。→それぞれの地域およびガイド個人の個性を生かしながら、質的な担保という意味で統一的に行う。
- ・ガイドのレベルについては?→2種ガイド(6・7名)となると山陰海岸全体と身の回りの両方のガイドが必要。1種ガイドは、身の回りのガイド。
- ・拠点施設の様子は?→山陰海岸全体を包括するような解説が3つの拠点施設それぞれで必要(施設近傍については充実)。→その点は強力にコメントする必要あり。
- ・予算の執行状況と収支は?→県および各市でうまくやっている。予算の大小で発言力の関係やバランスがある。APGNの大会を鳥取と兵庫の両方にまたがって開催。予算はそれぞれの自治体で持続的に計上・執行されている。
- ・内陸地震の震災メモリアルとは?→震災としての記憶と地震のメカニズムについてジオサイトやジオツアーのコースおよび教育として整備。
- ・APGNの来年に向けて最初兵庫で始まり、鳥取で終わる。京都側でも何らかの関連イベントを検討しては?→(委員長) そういう問題は島原でも苦労した。影響を受けるのは参加者となる。知恵を出して乗り越えてほしい。兵庫県の熱意が高く兵庫県立大学が新しい組織をつくるなどの動きも関係している。

(委員長) JGCとして拡大エリアを含めて再認定し、GGN申請について推薦して差し支えないという結論で良いでしょうか?→異議なし。

2. 恐竜渓谷ふくい勝山 GP 14:08~

現地審査員報告(中田)資料5・資料7

- ・現地審査員は、中田 節也、柚洞 一央、大嶋 利幸。
- ・前回からの宿題がどれだけクリアされたかを見てきた。
- ・体制および拠点整備を含め、グリーンカードは出せないということで、3人の審査員が共通意見。
- ・見どころは、恐竜博物館を中心として、新生代の火山地形と九頭竜川に発達する河岸段丘。
- ・博物館の集客力が大きい一方で、ジオパークの活動が活発に行われてこなかった。
- ・博物館は、ジオパーク認定時40万人/年の集客が、現在70万人/年に届こうとしている。これはジオパークの効果というより恐竜への関心の高さを示すのだろう。
- ・2000年位からの勝山市がエコミュージアムに取り組んでおり、地域力のアップが図られている。その延長上にGPが導入された。第5次勝山市総合計画の基本政策でエコミュージアムを推進する機能のひとつとしてジオパークが記述されている。
- ・恐竜博物館は当初GPの重要拠点と理解していたが、GP関連のパネルは審査対策の臨時の2枚のみで、GPについては勝山市に聞くよう促すなどGPの拠点としての機能を果たしていない。輸入した化石を販売し続けている。日本一の化石発掘量の宣伝がなされる一方で、将来を見据えた貴重な自然遺産の保護について考えが聞けなかった。
- ・ジオパークの担当者は3人(うち専任1人)。隣り合ったエコミュージアム担当者との情報共有もほとんどされていない。全国大会への出席報告についても、協議会内やエコミュージアム担当者と共有されていない。

- ・ジオツアーが行われはじめ、エコツアーをベースにスキーリゾート会社や観光協会・観光連盟が参加する新しい取り組みもある。
- ・ジオパーク内を3か所に分けて、場所ごとにテーマを違えている。ジオストーリーが活かされていない。ジオパークへの導線がほとんどない。
- ・宿題についての対応は、1. 恐竜の住む環境については、博物館内にしか説明がない。2. 岩屑なだれ堆積物の保全がなされ、露頭のチェックも定期的に行われている。3. 河岸段丘について、きちんと話されている。4. 地震災害についての情報は、教育の中で若干行われている。5. 案内板は、いまだ未熟であるが、HPは充実してきた。6. 以前として化石の販売がされている。7. 協議会の事務体制を明確にして必要な人事がまだ配置されていない。

質疑応答

- ・再認定審査では、新しい統一テーマを設定しているが、実現されているか？→三つの従来テーマそれぞれの活動のまま棲み分けのまま、活かされていない。
 - ・推進協議会の会長が副市長のままだが？→他のGPの状況を知らなかったため。実際は、市長が対応した。会長を市長が務めることについても前向きに対応予定。
 - ・他のGPとの関係は？→白山手取川および糸魚川と北陸連合を作りたい意向だが、具体的な動きはない。
 - ・エコミュージアムが主でジオパークが補完の位置づけに見えるが、このままでは両方とも逃すのでは？→エコミュージアムの活動はジオパークの活動として包括的にできることを説明したところ、あと数年待つて欲しいとの回答。
 - ・現在の状況は、活動の停滞によってもたらされたのか、4年前に見えなかったことなのか？→(事務局)停滞はあった。当初からの懸念がそのまま解決していない部分もある。(委員長)今でも県と市が一体となっている印象はない。
 - ・それは博物館や県・市のトップの問題なのか？→トップがジオパークの基本的な考え方を十分に理解していない面はある。県は集客しているのだから市がジオパークを進めるべきとの感覚に見える。
 - ・テーマの一つに火山があるが、火山としては何があるか、活火山なのか？→メインは岩屑なだれ堆積物であり、第四紀の火山である。
 - ・(委員長)エコツーリズム協会の理事との会談で、エコとジオが一体となってしっかりと連携をとりながら活動を進めていく必要があると話したが、その趣旨が伝わっていない。恐竜は題材として強力で、他とのストーリーを組み辛い点がある。
 - ・これからどういう改善ができるのか。JGCが応援する形で次の再審査を迎えるよう盛り込む必要がある。→恐竜博物館も4年前の宿題に取り組んでおり、新しい施設など拡充しているなど良い目もでている。その動きを保証するような体制が欲しい。
 - ・恐竜を発掘している点で保全についての議論が必要→その点は、指摘すべき。
- (委員長) ジオパークの意義を理解して体制を作るのは地元の努力となるので、それを2年間で推進してくださいというイエローカードの判断か？→異議なし
- ・イエローカード=GP取り下げではない？→その通り。再審査の期間が2年に短縮。
 - ・2年後改善されなければ、レッドなのか？→(委員長)そういうことである。

3. 天草御所浦 GP 14:35~

現地審査員報告(佃)資料6・資料7

- ・現地審査員は、佃 栄吉、目代 邦康、日比野 剛。

- ・地質学・古生物学の研究が中心で、地質学的なサイトが指定されているわかりやすく明確なジオパーク。
- ・地元住民の意識も高く、露頭の保全状況もよい。
- ・海上タクシー（クルーズ）が特徴。
- ・御所浦白亜紀資料館がメインの拠点。恐竜の足跡等の化石が産出。学芸員が活発に活動。高校進学前までに地元の島を理解してもらう教育活動も継続的に行われる。
- ・直接露頭を叩かず、工事で崩れた残土から化石を掘り出すツアー。
- ・当初の市の教育部から観光商工課、そして観光文化部ジオパーク推進室と年々事務局体制が強化されている。
- ・修学旅行生相手にアイランドツーリズムがあり、化石堀体験なども
- ・地元の若い熱意のある方がガイドとして活躍。ガイド料が安すぎるとの印象。
- ・国際対応は、WEB サイト・パンフレットともに進んでいない。
- ・認定審査時の指摘事項に対しては、テーマに則した展示の入れ替え、看板の改善も進んでいるが、まだ説明的。
- ・エリア拡大の準備も進められている。2市1町を含めた天草 GP 構想。
- ・もう少し海との関係に触れてもよい。天草全体の多島海・海水準が低かった時代の地形と海の中・良好な漁場の関係など地形と生活のかかわりなど。
- ・天草御所浦 GP としては着実に進歩しており、体制なども含めて特に問題はない。

質疑応答

- ・恐竜に依存すると、恐竜ばかりになり、外国産の恐竜化石やモニュメントが中心になってしまう。御所浦産の化石との関係の説明など、地元を意識した改善は進んでいるか？→全体として御所浦産以外の恐竜があることは、以前と変化はないが、御所浦産の化石（足跡）を前面に出して、説明として外国産の恐竜を見せている。
- ・現在人が住んでいる環境や場所の成り立ちについて資料館の説明やそれを語る人がいるか？→残念ながら、説明も不十分で、語る人もいない。現在準備中の天草 GP では、多島海などの自然・風景・地形と人々の暮らしについて説明する必要がある。
- ・恐竜を強調しすぎて他のジオサイトが少ない。地質と地形の関係、ケスタ地形、褶曲に触れていない。実際にはそれを面白がっているお客さんがいる。→地層面の層面すべりに化石が産出する露頭がある。地すべり災害の学習の場として使えるよいサイトになりうる。→4年前にも同じ指摘があるが、そこについては進んでいない。指摘の必要あり。
- ・修学旅行生の体験ツアーは、年に何件くらい？→宿泊できる民宿などの数で、年間受け入れ数は、決まっていて、数は飽和している。→楽しく対応できる範囲を超える人数は受け入れないようにして、持続可能なやり方の一つ。
- ・海との関係について、海上タクシーが使えるが？→システムがある中で、タクシーの運転手も GP が自分たちのビジネスになっていると実感。→（委員長）海底の地形・地質と陸上の地形・地質がどこの GP も切り離されているので、GP がもっと海底の方にもつながっていかないといけない。
- ・天草 GP 構想で今はまとまっている GP に問題が生じないか？→天草市が中心となって推進。だいたい GP の話が浸透している。女将が案内役のヘルスツーリズムがある。サイトの準備も進み、上天草市も活発になってきた。現有のスタッフだけでは手薄。新しく参加する市がスタッフをそろえるなど努力が必要との印象。

- ・中の交通手段に限られる。客数の過不足への対応等は？→海では船、島内ではタクシーを使用するしかない。小規模 GP の特徴である。→ガイドと組み合わせたタクシーやレンタカーのシステムなども期待される。

(委員長) 再認定の結論で良いでしょうか？→異議なし。

(委員長) 再認定全体を通じての意見は？ 14:59~

- ・ 隠岐の大会時に再認定審査および宿題の在り方について JGC 委員と現地審査員で議論する方向になったが、まだ進んでいない。→ (委員長) まとめる方向でどなたかが音頭をとっているのか？→主任は決まっているが、チームができていない→ (委員長) 引き続き議論が進むようお願いする。
- ・ GP 立ち上げの最初の三年間は、提案という形で指摘事項を出しており、今回の再審査でもそれが活かされていない例があった。来年の再審査に向けて、早めに現地と審査員とで情報をやり取りする必要がある。イエローカードを出した地域に対してどういう対策をとるのか、議論を進める必要がある。→ (委員長) JGN からこの委員会に対して、再認定審査を受ける側の意見をまとめてほしい。→ (JGN 事務局) 隠岐の大会で決まった再認定担当の主任は、JGN 側の人なので、そこで意見をまとめて出したい。→ (委員長) 何か進んだらメールで情報共有を→議論する ML がすでにあり、JGC のメンバーも含まれる。次の委員会までに宿題や議論のまとめが出せるよう進める必要がある。→ (事務局) メールでの議論は難しい。イエローカードについての宿題は急ぐ必要がありそれを優先させて、他の議論はじっくり取り組むべき。→ (委員長) 委員も議論が活性化するよう配慮し、メールで議論を進めましょう。

【伊豆半島ジオパークのエリア拡大の可否について】 15:06~

(事務局) 面積的には伊豆半島 GP 全域からすると狭い範囲 (長泉町、清水町) の拡大。書類審査のみで認定の方向もあったが、町田副委員長が急遽現地視察を行い、報告。

報告 (町田) 臨時資料 1 (委員限り)

- ・ 申請書の内容に問題はない。視察に行つて良かったとの印象。
- ・ もともと地域に入っていなかったのは、自治体間の関係の深い浅いによるらしい。
- ・ 当ジオパークからすると、北部にあった領域の裂け目を埋める拡大。伊豆半島、富士山、箱根に囲まれた特異な平野。
- ・ 三島市や沼津市といった大きな市に隣接し、自分の町を見直すうえでも重要。
- ・ 自治体間の温度差を埋める努力について気がかりな印象。長泉町は比較的積極的。
- ・ 個々のサイトの GP のテーマへの寄与は小さいが、伊豆半島北部をとりまく地形を観察できる絶好の見晴台 (本城山) については、GP のテーマへの貢献も大きい。
- ・ 普及について一般の人が興味を持ちやすい話題で、わかりやすく説明してほしい。

質疑応答

- ・ 「南からきた火山の贈り物」というキャッチフレーズは素晴らしい。富士山もその影響でないかと思う。→ (委員等) ガイドさんの説明では当然富士山も含まれる。
- ・ (委員長) 新幹線を熱海でおいて GP について尋ねたら知られていなかった。玄関口として、まだ難しいようだ。一方、ジオガシ旅行団で盛り上がりもある。
- ・ 富士山や愛鷹についてどのように関連付けて話すかについて、世界文化遺産も含めて、何か聞けましたか？→富士山が見えるとうとうでもそちらに目が向く。富士山に

はわからないことが多い。→(委員長)私が説明するときには、世界文化遺産・宗教の山であることを明確にして、信仰の対象であることに言及する。

・認定されて一年での領域拡大に問題はないか?→(委員長)GPをよくわかってきて、変えたいという申請については、その都度審議すればよい。→悪用の恐れは?→(委員長)審議で見抜ける。書類だけでなく現地審査も大切。

(委員長)拡大を認めることで良いでしょうか?→異議なし。

【認定保留中のとち鹿追ジオパーク構想について】 15:19~

(事務局)第18回委員会での新規認定の際、保留となった。運営体制・山と平地部分のGPとしてのつながり・情報発信の問題等が指摘されていた。指摘事項に対して、急速にさまざまな対応がなされ、アクションプランの提出があった。臨時資料3

- ・ジオパーク室を専任2人、兼任3人の体制にした。
- ・平野側でトレンチを掘って保護しながら露頭を見せるサイトの計画。
- ・WEBサイトが立ち上がり、パンフレットも準備中。
- ・若いプロガイドが然別で活動。
- ・地元の学校では「新地球学」として教育活動が充実。それを推進していた校長先生が推進室の室長になり、GP全体としてまとまってくるのが期待される。

(現地審査員:高木)教育面で非常に進んでいたが、様々な面で進んでいなかった点があり保留となっていた。事務局体制、運営体制、具体的な活動プランに動きがあり、保留をこれからどう扱うか、議論が必要。

質疑応答

・宿題について理解している。体制が強化されかなり整っているのでもうまくいくとの印象。拠点施設を建築し中核施設とする提案、ジオサイトを増やす複数の提案もある。宿題に応じており、保留の効果があつた。このまま保留のままであっても今後の進捗は変わらないであろう。

・(委員長)リーフレットの指導など、JGCの方に宿題がつけられている。今後の対応について意見は?→初めての保留の地域でもあり、今後もやりとりを継続してもよいのでは→(事務局)認定された地域と事務局はそれほどやり取りがない。鹿追とはずいぶん意見交換ができた。今後も意見交換を続けながら、良くなっていけばよい。逆に認定されたところがこのままで良いのかという問題もある。→(委員等)認定地域も4年後にチャンスがある。とち鹿追地域は、よく進んだ。事務局の努力も認めるところである。

・(委員長)判断としてどうすべきか?→これで十分認定で良いと思う。もちろんこれから実績を積んでもらう必要はある。認定に際して、これからの課題は改めて出す方がよい。再認定審査は、第18回委員会で認定されたところと同時で良いと思う。→(委員長)さかのぼって日付を?課題は現地審査員が対応?記者発表は本日?→日付は本日で良い。4年後のための課題は現地審査員対応で良いと思う。認定を決めたら本日発表で良い。→(事務局)念のため手筈は整えている。

(委員長)改善が認められ、とち鹿追地域を新規認定することで良いか?→異議なし。

【茨城県北GPの名称変更について】 15:29~

(事務局)12月初めにJGCとJGN宛で「ひたちのくにGP」に名称変更をしたい旨の手紙。手続きについての定めは無い。手続き論も含めて議論の必要がある。

質疑応答

- ・(委員長) 名称が GP の内容をあらわしているかどうかは、どういう評価だったか？→(事務局) 認定時の審査で評価していた。→(委員長) チェックリストの点数を含めて適切かどうかの判断、また JGC としてどう対処すべきかの議論を。
- ・理由については？→(事務局) 正式にはわからない。県が常陸国風土記 1300 年記念事業をやっている関係も。
- ・筑波山地域は、大丈夫なのか？→(事務局) 筑波山地域ジオパークの構想がまだ市民への広がりがなく、その事務局のみの判断で、今後本当に支障がないのかはわからない。
- ・「茨城県北」だと魅力がない。
- ・名称変更にも理由書およびコンセプト等の説明が必要。個人的には、「ひたちのくに」は、よろしくない。国府は、石岡にあったので、GP の範囲外である。耳障りは良いが、GP の範囲と名称が一体化していない。
- ・(委員長) 今までも名称変更について指導をしたことがあった(白滝、南アルプス(中央構造線エリア)、湯沢)。→もともと「ひたちのくに」の概念がある時、このエリアは適切でない。別の考えや違う概念で共感するならば検討の余地がある。
- ・昔から「金砂郷」という地名がある。金が取れた所で佐竹氏が力を持った理由でもある。→広い範囲を指す地名ではない。→常陸風土記 1300 年記念を進めている方と GP をもう一度見直すとか、最初の改善点について地域全体の最大の売りを明確にすべきという答えについて今の時点で見えていない中で、なぜ名称変更なのか、わからない。
- ・(委員長) 手紙では、名称変更で普及並びに観光振興に問題がないのかの指導を欲している。どう答えるか？→国立公園では、名前がどこを指しているのかわからなくて、旅行の案内等に使えないという話がある。また商品表示的にも、国立公園の広い範囲が問題になる場合がある。今の GP の場所をしっかりとあらわしているかが重要。→(委員長) トップダウン的な国立公園の認定に対して、GP はボトムアップ的な基本的違いがある。こういう名前と内容の GP を作りたいという基本があって、審査して認めてきた。普及と観光振興のための名称変更のアドバイスは今までできていない。今一度、基本に立ちかえって、どういう理由での名称変更なのか理由書が必要。審査の時と同様の書類をだしてもらい、JGC は、判断の資料にさせてもらおうとしか答えられないと思うが。→異議なし。名称変更自体は、意義が通ってれば認める方向で良いか？→異議なし。
- ・文字の問題で、漢字にルビをふった方がよい。「常陸」と「日立」の両方がある。
- ・名称変更申請の際は、認定時の課題の解決についての関係も記載をお願いしたい。

休憩 15:43～

【プレス発表資料作成】 15:56～

事務局から示された文案をもとに、プレス発表資料を作成。

【今後の審査方針と体制について】 16:22～

・(中川) 隠岐の大会で以下の問題で JGN の担当が決まっており、JGC 委員を交え議論を進める必要がある。現在はまだ動いていない。

* 審査のやり方について、報告書の書き方

*認定時の宿題（指摘事項）が各地でどう受け取られどう活用されているか

*JGNのサポートとフォローをどうするか？

*ブロック活動の在り方、課題の整理

*ジオパークの標準PPTスライドの作成

*ジオサイトの価値とは何かの議論

・（委員長）標準のスライドは、どのようなものか？→ジオパークとは何かを説明するスライド。最初は事務局が作ったものがあったが、現在はバラバラなので標準的なもの作りたい。→（委員長）それをネット上で公開する？→そのとおり。隠岐では、GP担当者に説明するものとして事務局が作ったものがあったが、ここでは、一般の人に説明するもの。→（委員長）最初にジオパークを説明する際に非常に便利なものであるが、いつまでもそのスライドを使い続け、そこから脱しきれない地域がある。どういう風に利用されるのか想定しながら、作る必要がある。いくつかの種類があってもよい。

・これまで宿題はだしたままでフォローがなかったが、どうしたらよいか？宿題がどういう視点で書かれないといけないか？宿題に対するアクションプランに対して何もコメントもしていない状況。出した宿題を如何にチェックするか。→GGNの方でも同様の議論がある。Recommendationsに対してそれぞれのGPがどう扱い克服しているのかなど。

・審査のやり方について、これまで試行錯誤でやってきた。報告を早めに出すためにもわかりやすく書き方を整理した方がよい。報告書を書く際に苦勞した点を共有した方がよい。→新規審査時は、チェックリストの表を使うが、再審査時には使いにくい。再審査時のリストがあつてよい。報告書を3人で手分けして書くが、まとめ作業が難しい。他の審査員の報告を委員は自分なりに咀嚼して報告しないといけない。項目がどういう重みづけでどんな視点が必要なのか、はっきりしていない。それらをどのように3人で共有するか。→（委員長）新規審査時のチェックリストは共有されているが、再審査時についてのはそれほどしっかり共有されていない。再審査の時に、新規審査時のチェックポイントがクリアされているのか、あまり確認されていない。→最初に指摘したポイントが軽重に関係なくならばられて、本当に改善してほしいところが変わっていない。アクションプランをチェックして、再審査までにどういうところを見ると伝える必要がある。→昨年の再審査では、チェックリストを頼りにメリハリのない審査であったが、本年は、3人の審査員の事前の打ち合わせで、審査報告書と宿題を読んでどこを見るべきかはっきりさせ、効率的に的確に審査が行えた。事前に審査員間で共有することは大切。→（委員長）それが強調されすぎると、最初クリアしていた部分がおろそかになる恐れも。→ISOの再審査では、規格要求事項という最低ラインのクリアが求められる。GPの場合、チェックリストと前回の宿題への対応の2点を見ていけばよいのでは？それを繰り返すことで、活動を持続させていく再認定にしていけばよい。→（委員長）基本は最初の審査のチェックリスト。宿題で悪い点を見つつ、良かったところも一応見直す。→3年目まで審査の時は、委員自身もよく分かっていなかったもので、初期の審査の報告書等は、もう一度見直す必要がある。こ

こ数年が悩ましい。審査に行く前の情報共有は重要。→(委員長) 審査員が集まって議論・情報交換する場ができたのは良かった。各 GP の専門員らが勉強する良い機会になった。

- ・審査を担当した人が、ある程度責任をもって見ていく。たまに一年位メールで状況をチェックし、サポートしておくが良い。→(委員長) 担当者を決めておく?→現地審査に行った人が担当で良い。→JGN に提出する報告書を審査員が共有すればよいのでは?→(事務局) 現在は、JGC と共有されていない。JGN でも広く使われていない。→アンケートも同様に使われていない。→(委員長) アンケートについて詳しく。→早稲田大学で研究ベースのアンケートを実施。→(委員長) アンケートについての学会発表が、JGN の活動に活かされることにもなる。前例が無い。→ある GP で A4 一枚のアンケートがあった。大学の卒論でやられているらしい。→(JGN 事務局) 毎年活動状況の調査をしている。今回以降は、JGC のみならず GP を研究していく方にもデータを公開していく。

【その他】 16:48~

- ・(事務局) 4月30日にパシフィコ横浜で公開プレゼンテーションと第20回委員会。2月12日が公開プレゼンテーションの申し込み締め切り。3月31日が申請書の締切り予定。5月~7月が審査時期。
- ・(事務局) 第21回委員会は8月28日にしたい。→異議なし。
- ・(事務局) 5月29日にJGNの総会がつくば市の産総研で開催。産総研理事長、JGC委員、JGNの理事、各地の首長も交えて、意見交換会を予定。
- ・(事務局) 10月・11月に再認定審査を行い、12月に再認定の委員会を行う予定。
- ・日本ジオパーク南アルプス大会(9月27日~30日)は決定か?→(事務局) 決定です。
- ・GPが認定されてから、その地で死者が出る初めての大きな災害があった。その状況でどれだけ指摘事項の改善ができるのか心配→今だからこそ、GPの活動をやっていて良かったと言ってもらいたい。淡々と普通に再審査して、足りないものについては指摘。
- ・今年 GP 隠岐大会で事前相談会があったが、あの場だけで良いのかという不安である。ジオパークがわかるようなワークショップを JGN としてやっていく必要があるのでは?→(JGN 事務局) 決して事前相談会だけで十分との認識はない。今後の GP 活動の進め方にもかかわる問題なので、議論してほしい。→(事務局) 審査を受けて結果を得ないと、市が予算等で動けない現状がある。事前に何とかすることは難しい。→(委員長) 年度予算の制度そのものの問題でもある。→JGN がワークショップ等に参加することを事前説明会と同じようにハードルとして設けることは可能。
- ・GP についてもっと良いキャッチフレーズ(現在は、大地の公園)がないか問われている。→(委員長) JGN で議論してほしい。若い人たちに是非。

17:00 閉会